

4がつ園だより

心地よい暖かさに誘われて、園庭の花々が新たな出会いを待ちこがれていたかのように咲く中で平成30年度を迎えることが出来ました。この春の訪れとともに78名の新たなお子様をお迎えすることができました。

ご入園・ご進級、誠にありがとうございます。ご家族の皆様も、さぞお喜びのことと存じます。園長はじめ、黒野こども園の職員一同、お子様のお世話が出来ますことを大変うれしく思うと共に、その責任を痛感いたしております。

黒野こども園は、一昨年度より幼保連携型認定こども園へ移行しました。

当園は、移行前の黒野保育園の前進であります黒野高等実科女学校付属幼稚園から黒野保育園となり、そして名実ともに幼稚園と保育園が一体化した「黒野こども園」へと変遷を遂げてまいりました。地域の皆様に愛され、ここまで発展を遂げることが出来ましたことをあらためて感謝を申し上げます。

この園を巣立ったお子様も、この3月に7171名となりました。

さて、幼保連携型認定こども園に移行してあらためて、保育園と幼稚園では基本的に乳児期の理解が違ってくるのが解ってきました。

当然と言えばそれまでなのですが、幼稚園では就園前の子育ては「家庭」が基本です。それまでに身につけなければならないはずの基本的な生活習慣をはじめ、乳児期につける力の育成は「家庭」の役割なのです。日本の社会は、長い年月の経過と共に社会の仕組みも大きく変わってしまいました。

多くの大人をはじめとするたくさんの「人」が子育てに関わっていた社会はいつしか姿を消し、子育て世帯の負担が大きくなり、それを眺めていた若者世代は子育てに不安を抱き、晩婚化が進む等少子社会へと移行してきたことはご承知のとおりです。

多くの「人」が子育てに関わっていた時代には、新米のお母さんにも「だれか」が関わって子育てを支援してくれたことでしょう。そんな世の中では、きっと乳児期は意識しなくてもそれなりに成長が促されていたのでしょう。

しかし現代はどうでしょうか。若い子育て世代は、智恵袋である祖父母との別居を選び、社会も少子化で同世代のこども達を持つ親の集まりも意識的に関わらなければ築けない状況に。更にIT社会が直接「人」と「人」を繋ぐ「場」を減少させ、LINE、Facebookといった媒体が人のコミュニケーションを繋ぐ手段となっています。

こんな変遷からもわかるように、決して子育て世代の問題というよりは、社会の問題として取り上げられなければならないのが、今日の「子育て環境」であると考えています。

幼稚園、保育園制度も、いよいよこの時代にそぐわなくなってきている現実もあります。

そんなことも、認定こども園が誕生する理由の一つになっていると思われます。

子どもの自信の現れ、主体性を語る時に「自己肯定感」という言葉がよく使われますが、日本人の若者の自己肯定感は先進国の中でも低いと言われていました。

この自己肯定感を育てるのが「親の愛情」「大人の愛情」と言われるように、乳児期に愛されて育てられたお子さんは「自分は大切な存在である」との意識が育まれ、自分に自信を持つ傾向があるとされています。

こども園では、長い時間家庭を離れて園で過ごされるお子さんも多く、保育教諭を中心とする大人の果たす役割が重要だとの認識から、乳児期からの一貫した教育・保育に取り組んでまいります。

これからの激動する時代に必要な能力を高めることは、この乳幼児期の育ちに関わっているといっても過言ではありません。子どもたち自身が自らの能力が発揮できるとともに協同することを通して共に高めあう、そんな力を育てるため、当園は「ほっこり」「わくわく」「じっくり」「わいわい」という教育・保育の4つの窓を軸とする環境創りを行い、子どもたちが主体的に共振・共鳴・共創できる遊び（学び）の環境を充実させていきたいと考えています。

さて、4月はすべてのお子さんの目が、一年のうちで最も輝く時期です。新しい環境・新しい先生・新しい友達、全てが子ども達にとっては新鮮なものとして映ります。

とりわけ新入園児の方々は、家庭という巣箱から飛び出したばかりで、その真に澄んだつばらな瞳とふっくらとした頬は桜のつぼみを思わせ、保育室にパッと花を咲かせてくれます。この姿をいつまでも失わせないように、責任をもってわたくしたち大人が守り育てていかななくてはなりません。

保育とは保育者だけで成立するものではありません。ご家庭との連携のもとで、はじめて、こども園という場が理想的な子育ての場になるのです。園に預けたのだからと、すべて子育てをこども園に任せてしまうというのでは困ります。車の両輪のごとく園と家庭と一緒に同じ思いで子育てをすることが大切です。これから一年間、ご無理を申しあげたり、ご協力いただくことが多々ありますが、「わが子の成長のため」と思い、その折はどうぞよろしくお願いいたします。

4月20日（金）は親子遠足ですので予定しておいてください。お弁当の準備をお願いします。

『まずは、先生、大好き！』

乳幼児期の子ども達は大変活動的です。こうした生き生きとした姿には、非常に好感がもてるものです。子どもは、お父さんやお母さん、家族、先生など信頼できる大人に愛情いっぱい育てられることで自己効力感を育み、それをベースとしてさまざまな活動に意欲的に取り組む中で、様々な知識を獲得したり、考える力、集中する力、創造する力、人とつき合う力等を培っていきます。このことが生涯生き生きと活動に取り組むために必要な力になります。そのため園では保育教諭との信頼関係が大切になります。『先生のこと、大好き！』という思いが、子ども達の活動意欲を高めていきます。まずは『先生大好き！』という実感を子ども達がもてるように、保育教諭と子どもとの信頼関係を築くことに努めて参ります。

『今までとちょっと違うけど・・・』

子ども達は、集団の生活に入ると今までとは違う姿を見せ始めます。園では、なんだかんだとって我慢しなければならぬことも出てくるのです。今まで玩具は自分一人のものだったのに、みんなで使う、順番に使うということになったり、呼べばいつでもすぐ自分のもとに来てくれたお母さんも園にはいないなど・・・。

そのため家に帰ってから今まで以上に甘えたり、乱暴になったりすることがあります。でも心配しないでください。子ども達がいずれ、上手にそのあたりを調整していきます。**家庭では、甘えさせてあげられる時に、十分に甘えさせてあげてください。これがこの時期の家庭での役割です。**

『給食って、おいしいね』

給食は、新入園児のお子さんにとっては、初めての経験です。食事をする時に一番大切なことは、楽しく食べることです。はじめのうちは、給食でつまづくお子さんもいます。でも無理をしてはいけません。園でも少しずつ慣れてくれればと考えております。給食が食べられないからといって、はじめから『しっかり食べてきなさいね！』『残さず食べなさいよ！』などとプレッシャーをかけないようにしましょう。給食の献立表が毎月配られます。献立を見てスプーン・フォーク・箸など必要なものを給食袋に入れていただきたいと思ひます。給食は、市の指導のもと、非常に栄養的にバランスのとれた豊富なメニューとなっています。栄養士と調理員が、手作りを基本に少しでもおいしいものをと毎日努力していますのでご安心ください。

『子育ての場として、黒野こども園を大いに利用して下さい』

現在の育児環境は必ずしも良いものとは言えません。子育てそのものに不安をもっている方もたくさんおみえになります。核家族化をはじめとする近年の子育て環境の変化が、お母さん・お父さんにゆとりをなくさせてもいます。こうした中で子育てについての悩みも多くなってきました。でも、一人で悩んでいても解決できません。一人で悩んでいると、自分を追いつめてしまう結果にもなりかねません。最悪の場合、それが虐待となって現れることもあります。子育てには多くの人の関わりが必要です。お母さんもお父さんも、子どもを育て始めた瞬間から親なのかというと、親になる訓練など誰も受けていないのです。子育ては新たな世界との出会いなのです。**子育ては「わからなくてあたりまえ」「人と違って当たり前」恥ずかしがらず、周りの人をどんどん自分の子育てに巻き込んでいきましょう。周りの人を頼っていいのです。疑問があったら、周りの人にどんどん聞きましょう。これが子育てのストレスを少しでも少なくするコツなのです。**

『子育ての楽しさを共感できるようなそんな場として、利用していただきたいと思ひます。』

お子さんを迎えにいらっしやった保護者の方がよく立ち話をしてから帰っていかれる姿を目にします。何気ないことを話せる、こんな場って大切ですね。そんな場として、気軽に利用していただければと思ひます。

ただし、子どもの監督だけは忘れずに！！昨年保護者の方にお子さんを手渡した後の事故が目立ちました。くれぐれもお気をつけ下さい。

今、子育てについて相談できる場が、核家族化、家庭の孤立化などによって、少なくなっています。こども園は子育てのための施設です。どの職員も絶えず子育てについて真剣に考えています。子育てのこと・家庭のことなど、子どもについて何か不安なことがありましたら、遠慮なくご相談下さい。不安は小さなうちに解消しましょう。当園は、育児相談事業を行っております。育児経験を持つ多くの保育教諭がいます。何なりとご相談下さい。

直接面談で相談するには少し勇気がいるというお母さんのために、電話による育児相談もあります。大いに利用しましょう。

岐阜市家庭児童相談室 9：00～17：00（月～金） ◇058-263-5817

岐阜県中央子ども相談センター 8時45分～21：00（月～金）

8時45分～17：00（土曜日）

◇058-276-4152

◇0120-76-1152 (携帯不可)

黒野こども園電話相談

◇058-239-3755

『子育ては量より質！ 家族も育児参加を』

女性の社会的な活躍がますます期待されています。当園に通われるお母様方も年々育児休業を取得され、仕事を続ける方が増えてまいりました。しかし、現実には子育てと仕事の両立は大変なことです。時には悩むこともあるでしょう。それでもお母さんが引け目を感じながらお子さんを園に出すのはやめましょう。どうぞ自信をもって、『お母さんはあなたのためにも自分のためにも働いているのだ』と胸を張ってください。子ども達があこがれをいただくようなお母さんになってください。

さて、子育ては、量より質です。お子さんを迎えに来られた時には、『あなたのことが大好き』ということ、身体いっぱい表現してあげましょう。また、子どもと関われる時に、一生懸命子どもの方に心を向けてあげることが大切です。園から一緒に家へ帰ってしばらくが勝負です。

長い間一緒に生活しても、心が他の方を向いていたら何にもなりません。短い時間を有効に利用しましょう。

また、ご家族も一緒に子育てに参加する意識をもって下さい。子育てを母親だけの仕事と位置づける傾向が強く感じられますが、父親、祖父母など周りの大人が関わるのが大切です。お母さんと一緒に子育てをする喜びを是非味わってください。家族の皆さんもお母さんだけに子育てを任せず、大いに子育てに関心を寄せてもらいたいと思います。お母さん一人では、子育てのストレスを乗り越えることが難しい時代になっています。そんな時にはちょっとした家族の一言や支えが必要になるのです。家庭内での子どもの存在は大変大きいものです。子どもとのふれあいによって癒される思いをもたれた方は多いのではないのでしょうか。子ども達は、生活に潤いをあたえてくれる存在です。明日の活力のためにも、子どもと共に過ごす時間を大切にしてください。

『子ども同士のトラブルについて』

新年度を迎え子どもたちは新しい環境のもと、新たな人間関係を築くことになります。特に入園されるお子さんは、今までは家族という小さな単位の間人間関係でしたが、これからはクラス、学年、異年齢の大きな集団の中での生活を余儀なくされます。そんな中、今までは当然自分の思うようになったことが、そうはいかなくなります。言葉で自分の不満を思うように伝えられないがために、たたく、つねる、かみつくななどの行動が表われます。これはごく自然なことで、社会への第一歩を踏み出した証でもあります。ここで子どもたちは人とのつきあい方を学び成長をしていきます。保育教諭はこの時期、このようなトラブルに関わりながら、子ども達が良好な人間関係を築いていけるよう導いていきます。こども園の基本的な考え方としては、このようなトラブルがあった場合「・・・くんに叩かれました。」など相手を特定するような伝え方は原則としていたしません。お伝えすることで、かえって親御さん同士が気まずい思いをされると共に、子どもたちが必要以上に意識して、あっさり仲直りができなくなってしまうこともあるのです。

また、大人同士が問題解決しても、子どもたち自らが問題を乗り越えない限り子どもの力とはなりません。社会性の育成は、お子さんが将来生きていく上で非常に大切なことであることを認識していただき、ご理解とご協力をお願いいたします。

『子どもの怪我について』

数年前から園内で起きる怪我の多くが、圧倒的に顔、頭を負傷する姿がみられました。

特に口の中を切る、歯を打つといったケースが目立っていました。

このことは、子どもを取り巻く環境が、従来の姿からかなり変わってきていることも影響してきているように思われます。昔の子ども達は自然を相手にした遊びが中心で、家庭へ帰宅後も外で遊ぶ姿がみられました。遊ぶ中で、自然に様々な運動能力を身につけてきたのではないのでしょうか。しかし、現在はどうか。街から子どもの遊ぶ姿が消え、遊びの中心が家庭の中でIT技術を駆使したゲームを中心とする遊びに変容しています。意図的に運動機能を強化することが必要となってきました。

幼児期は、生涯にわたる運動機能全般の基本的な動きを身につけやすい時期であると文部科学省は位置付け、運動能力の向上を目指そうとしています。

運動機能を養うことは、自分に危険が及んだ時にとっさに取る「危機回避行動」にも影響してきます。「倒れた時にとっさに自然に手をつくことで、顔の怪我を防ぐことができる。」「転ばぬ先の杖」ではないですが、自分の身を守る基本的な運動能力を養うことが、生涯にわたり未然に大きな事故から身を守ることに繋がると信じています。

また、運動能力を高めることは脳の発達とも関連が深いと言われています。

こんな考えを基本として、黒野こども園では、乳児期から保育の中でバランス感覚を養うような遊びを工夫し、子ども達の運動能力向上に努めています。また、危険から遠ざけるのではなく、自らが判断して、その障がい克服する能力が高まることを目指しています。

しかし、積極的にこのようなことを遊びを通して行うことから、バランスを崩し結果的に怪我をすることも考えられます。もちろん安全には配慮いたしますが、その点この取り組みに対する趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

将来、大きな事故につながらぬよう、能力が高まる今を大切にしたいと思います。

『園に対して協力的な姿勢を』

こども園は、非常に忙しい職場です。職員がオーバーワークになっている部分もたくさんあります。保育教諭といえども、一人の生身の人間であり、労働者なのです。何分この点をご理解いただき、園に対して協力的な姿勢・気持ちを持ってくださることをお願いします。また、これからさらに充実した保育を目指していくためにも、ご家庭の協力が必要となります。お願いいたします。

『地域で子ども達の安全を守りましょう』

残念ながら、各地で子どもが巻き込まれる犯罪が多発しています。昨年も多くの子ども達の命が失われました。小さな子どもであればあるほど、子ども達の命は大人が守らなければなりません。どうぞ時々、子どもが安全に生活するために、家族で何に気をつけなければならないのかを話し合ってみてください。また、地域の方々にお子さんの存在を知らせてください。地域とのつながりは、きっと犯罪の防止につながります。

『ご家庭へのお願い』

- 新入園児の方は、しばらくの間、登園時の別れ際に泣かれることがあります。そんな時は、あっさりとお別れするように努めてください。
- 当分の間、登降園時は大変混雑することが予想されます。そのため保育者との長話などは極力さけるようにしてください。用件は手短かに伝えるようにしてください。
- 持ち物すべてに、名前を大きくはっきりと書いてください。また、小さなお子さんには、名前の他に目印をつけるなどの工夫をされると、なお良いかと思います。
- 集団生活に初めて入ったお子さんは、心身ともに疲れますので、十分な睡眠と栄養をとるようにしましょう。
- 入園・進級当初の子ども達の精神状態は、平常ではありません。ちょっとしたことですねたり、泣いたりされることもあります。家庭でもその点をご理解いただき、十分配慮して対応してあげてください。

『登園される前に』

- * 朝食を家族の人と一緒にきちんと取らせてください。一日の活動源です。(脳の働きにはブドウ糖が必要です。朝食をとることによりブドウ糖が作られます。)
- * 洗顔、はみがきを怠らないようにしましょう。
- * 身なりをきちんと整えましょう。スモック・布製帽子を着用しましょう。(2歳児以上)
- * 遅刻をしないようにしましょう。9:00までには登園して下さい。
- * 登園前に排泄を済ませるようにしましょう。
- * 挨拶のできる子にしましょう。そのためには家庭でもお互いに挨拶をしましょう。

お子さんの生活リズムを一定に整えてください。